水稲技術情報 ＮＯ－12

令和４年７月２１日
ＪＡ営農支援課

出穂２日程度早い「あきたこまち」は８月２日頃

１．水稲の生育状況(７月１９日)現在

あきたこまちの生育は、平年比で草丈111%、茎数97%、葉数＋0.5葉、葉色100%となっております。草丈についてはやや長めとなっており、茎数については葉色値が高めで日照時間も確保されていたため、全ての品種で前回より増加しており、倒伏が懸念される品種等は追肥の判断を慎重に行う必要があります。

あきたこまちの幼穂長から見た出穂期は、平年より２日程度早い**『８月２日頃』**と思われます。また、村内全域においてフェーン現象等による乾燥した風が影響した葉先枯れ症状が目立っております。今後も高温日が続くことが予想されますので、土壌を乾燥し過ぎないよう配慮し、以下を参考に今後の管理に努めてください。

水稲定点調査圃の生育状況(７月１９日)　※平年値は最高値と最低値を除いた過去10年の平均

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/㎡)		葉齢(葉)		ＳＰＡＤ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	**74.9**	67.3	**418**	431	**11.9**	11.4	**42.0**	42.1
（慣　行）	**70.7**		**374**		**11.8**		**43.4**	
(側条ﾍﾟｰｽﾄ等)	**77.9**		**450**		**11.9**		**41.0**	
前年比	109 %		98 %		0.3 葉		103 %	
平年比	**111 %**		**97 %**		**0.5 葉**		**100 %**	
たつこもち	**78.2**	67.3	**393**	419	**12.3**	11.4	**45.8**	43.8
きぬのはだ	**72.2**	61.4	**489**	503	**12.5**	11.9	**39.3**	39.9
ときめきもち	**70.0**	61.5	**401**	498	**12.3**	11.4	**40.4**	41.1
サキホコレ	**73.6**	64.1	**452**	495	**12.0**	11.2	**37.5**	38.4

２．出穂期予想[１９日現在](砂地圃場は３日程度早め)

品　種　名	幼穂長(mm)		減数分裂盛期	出 穂 期 予 想	
				本　年	平　年
たつこもち	葉耳間長	-10～20	７月１８日	７月２８日	７月３０日
あきたこまち	幼穂長	**0～70**	**７月２４日**	**８月２日**	**８月４日**
きぬのはだ		0～8	７月２７日	８月６日	８月９日
ときめきもち		0～10	７月２７日	８月６日	８月９日

《幼穂長と出穂前日数並びに低温に対する強弱》

幼　穂　長	葉耳間長	出　穂　前　日　数	低温に対する強弱
約７cm	**－ 10cm**	**１３日(減数分裂始期)**	**最も弱い** **(17℃以下が予想される場合は深水湛水で保温に努める)**
約１５cm	± ０cm	１０日(減数分裂盛期)	

３．今後の技術対応

１）倒伏対策［長稈・葉色値が高い圃場］［畦廻りスポット処理可能］

過剰生育等により倒伏が心配される圃場はつぎの薬剤で対応してください。（各１成分）

（ロミカ粒剤）出穂前25～10日　［散布量２～３kg/10a］

（あきたこまち：7月22日頃までが散布の目安）

（ビビフル粉剤DL）出穂前10～5日　［散布量３～４kg/10a］

（あきたこまち：7月22日～7月27日頃が散布の目安）

（ビビフルﾌﾛｱﾌﾞﾙ）出穂前10～２日　［散布量1,000倍　100ﾘｯﾄﾙ/10a］

※ラジヘリ対応可　（あきたこまち：7月22日～7月30日頃が散布の目安）

２）減数分裂期追肥

出穂後に穂首が伸長する品種（あきたこまち等）の追肥を行う場合は、各自圃場の生育量・葉色等を確認のうえ、**葉色が低下している圃場を主体に**追肥を実施してください。**減数分裂期に草丈が長く(80㎝以上)、葉色値が高い圃場(SPAD値で42以上)では、倒伏の危険性**がありますので、追肥を控えてください。

３）病害虫防除

①いもち病

中干し後も葉色値の高い圃場等では、葉いもち病の発生が懸念されます。穂首及び枝梗への感染を防ぐためにも、圃場内を確認し発生が見えた場合は、つぎの薬剤で早急に防除をしてください。

○未防除・初発生圃場

・***コラトップ１ｷﾛ粒剤：[１kg/10a、穂いもち：出穂５日前まで]***

○発生が多い圃場

※(いもち病･稲こうじ病　同時防除)

・***ブラシンフロアブル:[500ml　1,000倍、水100ℓ/10a]***

※(ラジヘリ対応)***[8倍、800ml/10a、500ml1本で50a散布]***

・***ビームエイトゾル（５Ｌ）***

・***ブラシンゾル（500ml）***（いもち病･稲こうじ病　同時防除）

②紋 枯 病

過剰生育の稲(特に畦畔廻等)については、今後の天候(高温)次第で発生が懸念されますので、心配される場合は、つぎの薬剤を散布し予防してください。

収穫45日前まで　モンガリット1ｷﾛ粒剤・１成分[散布量1kg/10a]

※「紋枯病・稲こうじ病同時防除」：[３日間湛水状態を保つ]

③稲こうじ病

特に幼穂形成期～出穂期の低温・多湿条件で多く発生しますので、心配される場合は、つぎの薬剤を散布し予防してください。前年に発生した圃場については、発生率が高まりますので防除に努めてください。

出穂10日前まで（Ｚボルドー粉剤DL・１成分)[散布量３kg/10a]

出穂直後までが効果（ブラシン粉剤DL：２成分）[散布量４kg/10a]

④斑点米カメムシ類

［あきたこまち 1回目散布時期出穂後10日頃：8月12日前後］***（ウンカにも効果）***

エクシード　各１成分

[粉剤：散布量３kg/10a]

[フロアブル：2,000倍で60ℓ/10a、無人ヘリ：16倍で0.8ℓ/10a]

キラップ 各１成分

[粉剤：散布量３kg/10a]

[フロアブル：2,000倍で60ℓ/10a、無人ヘリ：16倍で0.8ℓ/10a]

※「ばか苗病」の散見される圃場は、見つけしだい抜取りをよろしくお願いします。
※ 農薬の使用に当たっては使用法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。

「水稲技術情報」https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稲以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。